

■ロシア、ウクライナ：2009年1月20日、ロシアから欧州向けの天然ガス供給が再開  
ガス代金の滞納と2008年契約の期限切れを理由に2009年1月1日から停止していたウクライナ向けの天然ガス供給は、懸案となっていたロシア・ウクライナ間のガス供給問題が両国政府間で決着したことで、1月20日、約2週間ぶり再開した。またウクライナによる欧州向けガスの不当抜き取りを理由に1月7日から停止されていた欧州向けの天然ガス供給も同時に再開した。1月18日に行われたプーチン、ティモシェンコ両首相の会談では、2009年以降のロシア産天然ガスのウクライナ向け価格を欧州方式で設定し、2009年に限っては20%の割引を行うこと、また、欧州向けガスのウクライナ通過料については据え置くことで基本合意された。さらに、ウクライナ・欧州向けのガス供給については両国のガス会社が契約を締結した後に再開することが確認された。翌19日には、ロシアのガスプロム社とウクライナのナフトガス社がウクライナ向けガス供給および欧州向け通過に関する長期契約（2009～2019年）を結び、ウクライナ向けガス価格については、2009年は欧州向け価格である1,000m<sup>3</sup>当たり450ドル（約40,000円）の20%引に当たる同360ドル（約32,000円）、2010年以降は欧州向け価格と同一水準とし、また通過料については1,000m<sup>3</sup>／100km当たり1.7ドルに据え置くことでまとまった（2008年のウクライナ向け価格は同179.5ドル）。